

事務事業名	6963 友好都市交流事業													
担当組織	市民生活部					協働推進課					担当	市民交流担当		
組織コード	R2	13	04	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	02	01	13	01	02	記入日	令和 2年 6月24日
	R1	13	04	00		R1	01	02	01	13	01	02		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ		実施計画候補
基本目標	07 人が集い心ふれあうまち	● 対象 ○ 対象外
分野	05 国際交流・国際化・国内交流	
施策	79 国際・国内交流の促進	
事業期間	昭和56年度～令和2年度	
根拠法令 通達等	関連計画 施政方針	戸田市友好都市交流指針
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの	
対象	市民	
事業目的	異なる特徴・資質を持つ国・地域との交流を通じ、国際理解の醸成ならびに相互の地域振興及び住民生活の向上と郷土愛を育むことを目的とする。	
事業内容	国内外の友好・姉妹都市との文化・芸術・スポーツなどの広範な分野での交流事業実施に向けた情報提供や連絡調整等の支援を行う。	
実施主体	<input type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input checked="" type="checkbox"/> 協働・協力 (国際交流協会他)	

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		令和元年度 執行額(千円)	令和2年度 予算額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)
	事業費		24,875	37,381	11,835	29,299	29,299
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		起債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
	一般財源		24,875	37,381	11,835	29,299	29,299
	人件費		6,916.48	9,313.28	9,313.28	6,916.48	6,916.48
	投入 人員	常勤職員	1.01人	1.36人	1.36人	1.01人	1.01人
		非常勤職員	0人	0人	0人	0人	0人
事業費+人件費		31,791	46,694	21,148	36,215	36,215	
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式	H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動①	国内友好・姉妹都市交流事業数	事業	白河市・美里町との交流事業数	30 28	30 24	30 -
	活動②	(公財)戸田市国際交流協会補助金額	円	国際交流協会補助金予算額	23,330,000 19,505,770	26,365,000 21,098,206	24,356,000 -
	成果①	国内友好・姉妹都市交流事業参加者	人	戸田市民の参加者数	600 518	600 385	600 -
	成果②	国際交流活動(イベント等)開催回数	回		6 6	6 6	6 -
	目標達成状況の分析 B: 活動・成果のいずれかを達成した。 <判断理由> 国内友好・姉妹都市との交流事業については、台風19号や新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、交流事業数及び参加者数ともに目標に達することができなかった。国際交流活動については、開封市友好都市締結35周年記念事業の開催や、東日本大震災以降、実施ができていなかったリパブル市青少年友好代表団が来訪するなど、活動開催数の目標は達成することができた。						

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由> 国外交流については、開封市友好都市締結35周年記念事業の実施や、東日本大震災以来9年ぶりにリバプール市青少年代表団の受入れを実施したほか、オーストラリアカヌーチームのオリンピック事前トレーニング受入れの調印をするなど、積極的な交流を図ることができており、施策の目標達成に貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 執行に当たり、規定に基づいた補助金の交付を行い、未執行分については、市への返還を行うなど、適正な執行を心がけている。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 国内・国外ともに友好交流事業推進委員会が中心となり、事業を進めている。国外交流については、市の国際交流を推進している（公財）戸田市国際交流協会と連携して事業を進めており、事業手法は適正である。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 各事業においては、行政の負担のみならず、個人負担もあることから、受益者負担の適正化は図られている。また、青少年海外派遣事業については、未来を担う子どもたちに、異文化とふれあう機会を公平に提供できるよう、募集には公募形式をとっている。

4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	（公財）戸田市国際交流協会が主催する青少年海外派遣事業については、開封市への派遣事業において、定員に満たない年度もあったことから、例年定員を超える応募があるリバプール市への派遣事業申込者の中から、第2希望枠を設定し、多くの青少年に異文化とふれあう機会を提供することとした。
見直しの効果	リバプール市への派遣事業申込者の中から、開封市への派遣に参加した生徒もおり、多くの青少年に異文化とふれあう機会を提供することができた。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 国内外の地域住民との交流を通じ、様々な地域や文化を知ることにより、相互の理解が生まれ、郷土愛が育まれることから、友好・姉妹都市交流は重要な事業である。特に、青少年による交流は、多感な時期に国際交流を経験したことをきっかけに、将来の国際化に寄与する可能性を持った貴重な機会であることから、引き続き継続する必要があると考える。
今後の取組方針	国内・国外交流ともに現状の事業の方向性を継続して実施していく。国内交流については、ホームページやSNSを活用し、お互いの自治体のイベント等を紹介し合うことで、両市民の行き来が活発になるよう促進していく。国外交流については、国家レベルの社会状況の変化などが現在も見受けられ、また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業の中止を余儀なくされることもある。令和2年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、青少年派遣・受入れ事業が中止となることから、オンライン交流など新しい生活様式を取り入れた交流を検討するとともに、延期となったオリンピック開催時のリバプール市との交流を再度働きかけていくこととする。